



羅臼町議会だより



しれとこ

第1回定例会	2～4
一般質問	5～9
総務民生・経済文教常任委員会合同行政視察	10
小学生によるまちづくり提案会	11

令和7年

第**182**号

4月25日



小学生によるまちづくり提案会

令和7年 第1回定例会

去る3月5日～13日、令和7年第1回定例会が開催され、各会計補正予算、新年度会計予算、条例改正5件、条例制定2件、工事請負契約の締結1件、公の施設に係る指定管理者の指定1件、発議1件、すべて原案通り可決した。

令和6年度一般会計補正予算

補正額 **△919万円** 総額 **55億1,601万円**

(万円以下四捨五入)

議会費	議会議員に要する経費	△291万円
総務費	消防事務組合負担金	△410万円
	積立金	104万円
	町有バスに要する経費	1,828万円
	知床物産展に要する経費	△52万円
	税務一般事務に要する経費	13万円
民生費	老人福祉センター運営に要する経費	250万円
	特別会計繰出金に要する経費	△237万円
	児童手当等支給に要する経費	17万円
衛生費	修学資金に要する経費	△100万円
	国民健康保険診療所事業特別会計繰出金	△125万円
	乳幼児等医療費助成事業に要する経費	8万円
	合併処理浄化槽普及事業に要する経費	△184万円
	妊婦・乳幼児検診に要する経費	19万円
	根室北部衛生組合負担金	△729万円
	一般廃棄物最終処分処理負担金	△120万円
	一般廃棄物処理に要する経費	△320万円
土木費	町道維持補修及び除雪に要する経費	△707万円
教育費	英語指導助手に要する経費	△63万円
	給食センター管理運営に要する経費	180万円

令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算

補正額 **133万円** 総額 **10億1,472万円**

諸支出金	返還金	1万円
	特定健診審査等負担金償還金	7万円
	国民健康保険診療所事業特別会計繰出金	125万円

令和6年度介護保険事業特別会計補正予算

補正額 **△505万円** 総額 **4億8,554万円**

総務費	介護保険事務に要する経費	12万円
地域支援事業費	包括支援センター運営に要する経費	△169万円
	認知症総合支援事業に要する経費	△348万円

令和 6 年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算

補正額 **△146万円** 総額 **8,375万円**

納付金

後期高齢者医療広域連合納付金

△146万円



条例制定

- 一、羅臼町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例制定
- 二、羅臼町再生可能エネルギー推進条例制定

条例改正

- 一、羅臼町情報公開・個人情報保護審査会条例の一部改正
- 二、羅臼町町税条例の一部改正
- 三、羅臼町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正
- 四、羅臼町家庭的保育事業等設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正
- 五、羅臼町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正

工事請負契約の締結

- ・羅臼町老人福祉センター浴室改修工事

議員発議

- 一、羅臼町議会の個人情報保護に関する条例の一部改正



老人福祉センター浴室

予算審査特別委員会報告!!

令和 7 年度 各会計予算が決定

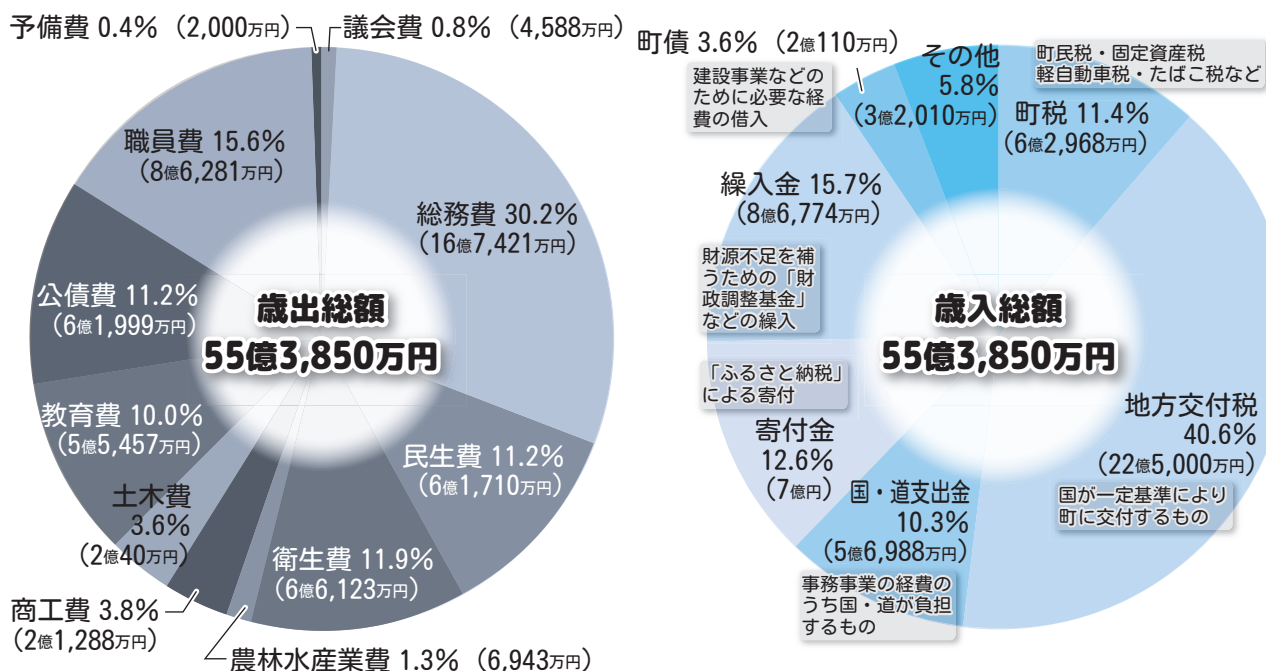
令和 7 年第 1 回定例会で付託された新年度予算（一般会計・特別会計）について、3月10日～12日までの3日間にわたり予算審査特別委員会を開催し、慎重かつ熱心に審査が行われ、委員全員一致により原案通り可決・決定された。

予算審査特別委員長 小川 雅勝

各会計総額 **75億2,591万円** 前年度比 **5.7%増**

（万円以下四捨五入）

令和7年度一般会計予算 55億3,850万円 前年度比8.3%増



▶ 特別会計（歳入・歳出）

	本年度予算額	前年度比		本年度予算額	前年度比
国民健康保険事業	9 億3,821万円	3.8%減	後期高齢者医療事業	8,636万円	5.4%増
介護保険事業	4 億9,006万円	1.1%増	国民健康保険診療所事業	2 億924万円	5.5%減

▶ 水道事業会計（歳入・歳出）

		収入予定額	支出予定額	資金期末残高
水道事業会計	収益的収入・支出	1 億7,614万円	1 億6,634万円	1 億7,879万円
	資本的収入・支出	6,876万円	9,718万円	

今年の主な新規事業と年間予算

①介護職員研修支援事業 990千円

町内で介護職員として就労している方、又は就労を希望している方の技能を取得するための研修（初任者研修、実務者研修等）の受験機会を支援します。

②妊婦のための支援給付金事業 2,250千円

妊娠期からの切り目のない支援を行うため、妊婦であることの認定後に給付金を支給する事業です。

③出産祝い金支給事業 8,500千円

次世代を担う子どもの出生を祝福するとともに、子育てに伴う経済的負担の軽減と子どもの健全な発達を願い新生児1人に50万円を支給します。

④新生児紙おむつ用ゴミ袋支給事業 327千円

紙おむつを使用する子育て世帯へ町指定ごみ

袋（燃やせるゴミ10ℓ）を新生児1人につき1ヶ月1袋（10枚入り）を2年間分支給します。

⑤学校給食無償化事業 21,227千円

保護者の経済的負担を軽減し、子育てしやすい環境の整備と地場産食材を活用した学校給食による食育活動の推進を図ります。

⑥デジタルサイネージ導入事業 27,120千円

町内の観光施設等に多言語に対応したデジタルサイネージを設置し、観光客に対する観光及び防災情報のデジタル化を推進する。

⑦多言語翻訳機導入事業 2,056千円

お互いが翻訳の結果を確認できる対面ディスプレイ式の多言語翻訳機を導入し、インバウンド等の受入環境の整備を行う。また、掲載機能として、難聴者、言語障がい者等とのコミュニケーションも可能となり多目的な活用も図れる。

「ここが聞きたい」一般質問Q & A

議員は毎年3月・6月・9月・12月に開催される定例会で、町政全般に対し、質問することができます。これを「一般質問」と言います。

今回は5名の議員が質問しました。

本文は、質問した議員本人の責任で執筆（要約）した原稿を掲載しています。

令和7年 第1回定例会 一般質問

外国人労働者確保の 支援について



加藤 勉
議員

質問

労働力確保のため、水産業や観光業、さらに製造業や介護分野に外国人労働者が採用されるようになってきました。

これら外国人労働者確保に係る経費支援策について伺います。

湊屋町長
交流イベントなどを通じて安心して働ける環境の整備を図っていきま

湊屋町長

現在、急激な少子化により日本全体で慢性的な労働力不足が発生しており、特に地方においてはその傾向が顕著となっています。

このまま少子化が進むと二〇三〇年には六四万人もの労働力不足になると予想されています。

外国人労働者確保の支援について

外国人雇用に係る人事派遣業者への経費に対する支援は難しい状況ですが、交流イベントの開催などを通じて外国人労働者が安心して働き、暮らせる環境づくりを行うことで離職者を減らすなど、雇用対策全体の問題として考えた中で、どのような支援が実施出来るか検討して参ります。

羅臼高等学校の支援について

質問

羅臼高等学校の入学者確保に向けて「地域みらい留学」を活用し、令和八年度から全国公募を目指していくとしていますが、令和七年度の具体的取り組みについてお聞かせ下さい。

石崎教育長
「おためし留学」を開催していきます

石崎教育長

本年度の具体的な取り組み内容については、六月と八月に東京都で開催される全国の中学校や保護者に向けた合同説明会に参加し、羅臼高等学校の先生や生徒、町職員による町や羅臼高校の魅力発信や、学校の取り組み、生活環境など、生徒と学校が直接話せるマッチング事業に取り組んでいきます。また、「おためし留学」として、実際に当町を訪れてもらい、知床羅臼を感じていただく機会の創出を図っていきます。

学校の訪問や自然環境体験プログラム、地元高校生や大人との交流会などにより、生徒募集のプロモーション強化に繋がるものと考えています。その他、地域おこし協力隊として「高校魅力化コーディネーター」を採用し、羅臼高校の魅力を全国に発信するとともに、生徒や教員との交流を図り、

再質問

授業や生活面での相談役としても活躍して欲しいと考えています。

令和八年度からの全国公募を目指して、町外の生徒目線による羅臼町の魅力発見と、交流人口・関係人口の拡大に取り組んでいきます。

八幡学務課長

二月二十八日で応募期間を終了しました。問合せは一件ありましたが、応募には至っていません。

再質問

今後受入れ先の確保について検討して欲しい。



浜岸 昭仁 議員

図書館の利用について

質問

図書館が令和六年六月二日にオープンしましたが、利用者数・貸出冊数とも羅臼町役場内で運営していた時に比べ、多少増えた程度です。今後、子供たちを始め多くの町民の方々に利用していただく為の対策をどのように考えているのかをお伺いします。

長 本に触れ合う機会を提
育 供し、町民の読書活動
教 習慣が定着するよう努
崎 めます

石崎教育長

図書館は、誰もが平等に情報へアクセスできる場所として、書籍・デジタル資料、インターネットなど多様な情報の提供を行いながら、地域住民のニーズに応

じたサービスを展開し、子供から大人まですべての住民の学びを支援する場であります。

来館者につきましては、役場で開館していた近年は、年間約三、〇〇〇人でしたが、新図書館がオープンして一年を経過していない状態で、五、八〇〇人を超える来館者となっており、多くの皆様に足を運んでいたにいてるところです。

多くの方々に利用していただくための対策ですが、「小さい子のお話会」など子供たちに対する様々な各種事業を展開しております。

再質問

令和六年八月を例に見ると、来館数が一、〇〇五人に対し利用者数は一七六人となっております。そこで私自身が来館し、中の様子を確認致しました。すると観光客が暑さをしのいだり、トイレを利用するためだけに来館している事が多いと見受けられましたが、どのようにお考えかお伺いしま

長岡社会教育課長

来館し図書館内の読書スペースで本を読まれている方も多少はいらっしゃいますので、本を借りなくても触れ合う機会を増やしていると思います。

再質問

暑い時期に無料で飲み物を提供したり、子供向けのイベントや絵や習字などの展示をするなどして、親子で来館し本に触れ合うきっかけを作る必要があると思いますが、どうお考えかお伺いします。

石崎教育長

飲み物につきましては、何度も検討して参りましたが、設置場所などの問題から自動販売機を設置いたしました。作品の展示につきましては参考にさせていただき、より良い図書館運営に努めて参りたいと思います。

町内の水道管について

質問

昨年十二月の定例会におきまして、町内の水道管更新時期について質問した際に「これから計画を立てて進めて行きます」と答えられました。計画策定の進捗状況について、令和七年度はこの部分をどのように進めて行くのかお伺いします。

長 湯ノ沢浄水場の受変電
屋 設備が法定耐用年数を
湊 経過しており更新実施

湊屋町長

令和七年度に中長期的な経営の基本計画となる「羅臼町水道事業経営戦略」の更新年となることから、この計画更新と水道事業の目視すべき基本的な方向性や今後の取り組みべき目標をまとめ「水道ビジョン」と併せての策定を計画しております。現在は計画の策定に向けた資料整理等を進めております。今後は示された方

向性のもと、令和八年度から施設等の老朽化対策を進めて参りたいと考えております。しかしながら、現在湯ノ沢浄水場の受変電設備が法定耐用年数を経過している状態であり、故障すると排水や水処理機能が停止し水道供給ができなくなる事から、計画策定を待たずに更新に向け、令和七年度に受変電設備更新実施設計を計画しており、漏水調査の結果等により、対策として岬町地区の一部老朽管を更新する計画をしています。

再質問

岬町地区は、令和七年度にどの部分を更新するのか具体的な位置をお答えいただけますか。

佐野建設水道課長

令和六年一月に破損し、町民の方々には多大なご迷惑をおかけしましたので、令和七年度は計根別橋以南の一部を更新する計画になっております。



喜 宏 議員
米 井

若年層の労働力確保への取り組みについて

質問

地域おこし協力隊の多分野募集、移住体験事業の実施、更にはSNSを活用した地元の魅力発信など一定の効果が期待されるものの、主に町外からの労働力確保を目的とした施策に偏っている印象を受けます。

「若年層の労働力確保」を言及されているが、その具体策としては求人方法の工夫やイベントの開催など、外部からの人材誘致に重点が置かれているように思う。一方で、町内の若年層を育成し、定着させるための取り組みは十分に検討されているのか。町内の人材育成にも力を入れるべきだと考えるが、町としてどのように考えているのか。

湊屋町長 若年層を含む労働者が町内に定着してもらえ、る仕組み作りを検討

湊屋町長

現在の取り組みとして町内中高生のためのインターンシップの実施、町内雇用に関する取り組みや新規起業のための「羅臼町企業支援事業補助金」を活用していただいている。今後は季節ごとの労働需要に応じて複数の事業者に従事することにより年間を通して雇用

が生まれる制度を創設するなど、若年層を含む労働者が町内に定着してもらえ、る仕組み作りを検討していく。

観光施設(道の駅)の充実化について

質問

近年、道の駅周辺の地域活性化の重要性が一層高まっており、その中で、道の駅前スペースにおいて、キッチンカーの出店が見られます。飲食店の数が限られる羅臼町にとって、キッチンカーは、地域経済の活

性化にも繋がる重要な要素であると考え。しかしながら、現状ではこのイベントスペースの利用に対して町が利用料を徴収しており、出店者にとっては燃料費などの経費と併せて大きな負担となっている。

道の駅の賑わいを更に促進するためにも、イベントスペースの利用料を無料化し、出店者参入の障壁を下

げることが有効ではないかと考える。将来的には予約待ちが発生するような活気ある場となる可能性もあるが、町としてはどのように考えているのか。

湊屋町長 出店しやすい環境作りや募集の強化に努める

湊屋町長

道の駅前のスペースで徴収した使用料については一旦町の収入となるが、その後観光協会へ管理委託料として支払われ自主財源となっている。出店者が増加することは飲食店不足の解消や来訪者の満足度向上に繋がるものと考えているの

で、今後も意見を聞きながら出店しやすい環境作りや募集の強化に努めていく。

羅臼町における教育環境について

質問

羅臼町では、三歳から十八歳までを見通した一貫教育の実施をはじめ、熊学習、知床学、おむすび、コオーディネーション、トレニン

グ、ユネスコスクールなど、多岐にわたる教育活動が行われていて、子どもたちに貴重な学びの機会を提供するものであり、高く評価されるべきものである。しかしながら、これらの活動を授業計画に組み込むにあたり、現場の教職員の負担が

大きくなっていることが懸念される。特に、教職員の働き方改革が求められる中、町からの要請によって業務負担が増加してしまう可能性もある。より良い教育環境の整備を進める中で、教職員の負担軽減に向けた具体的な施策はどのように検討されているのか。また、

町が考える「教職人生の豊かさ」とはどのようなものか伺います。

石崎教育長 北海道アクションプランに基づき成果と課題を整理しながら進めている

石崎教育長

「学校における働き方改革北海道アクションプラン」に基づき成果と課題を整理しながら進めている。

教育委員会は毎月教職員の時間外在校時間の確認や年二回のストレスチェックを行っている。各学校においては時間外勤務が発生しないよう留守番電話の設置も行い、勤務時間外の電話対応軽減を図っている。

「教職人生の豊かさ」は子どもとの人間形成に関わることでできることであると考え。そのためには自身の「授業力の向上のための時間」、「子どもと触れ合う時間」が必要だと考える。これら二つのことが教職人生の豊かさであり、これを豊かにすることが働き方改革の推進だと考えている。



小川 雅勝 議員

道の駅周辺の市街地区の活性化について

質問

商店街や町の賑わいが薄れて行く中、これからの町づくりについて考えていかなければならないが、執行方針の中で「道の駅周辺を含む市街地区の地域活性化及び魅力化に向け『未来創造会議』にて議論され、今年度より基本構想の策定に着手する」とあるが、今までどのような議論をされてきたのか、また交流センターの改修なども検討されているのか伺います。

湊屋町長 観光客の満足度向上、必要な整備・改修も含め検討

湊屋町長

未来創造会議では、道の駅周辺において複合的な観光拠点の施設及び整備の可能性について、また、それらの運営主体としての町づ

くり会社等の立ち上げについて議論してきた。第二ステージとしては、羅臼町と一体となって取り組んでくれるパートナー事業者の選定、未来を見据えた羅臼町全体としての観光客の受入態勢の整備に関する基本構想等の策定を進めて行きたい。

再質問

土地が無い中で、新たな施設の設置は可能なのか。

湊屋町長

利用されていない空き家・施設等の所有者にお話をさせて頂いているが、道の駅周辺全体で構想を描いている事が重要だと思っています。

再質問

再開発には町の中も含め駐車場の確保が課題かと思いますが、空き地等がある場合は、町で買い上げる事も検討する必要があるのではないかと。

湊屋町長

駐車場の問題は大きな課題であり、道の駅周辺には土地が無いので、国の政策である海業の中で西埠頭を

整備できないかと模索しております。今後、空き地等が町の構想の中で重要な箇所であれば財産取得も考えたい。

自然とみどりの村周辺の再整備について

質問

自然とみどりの村とオートキャンプ場を一体とした再整備について検討を進めるとありますが、スポーツ施設も一緒に検討した方が良いと思います。スポーツ施設は利用されている形跡もなく、施設の在り方について検討する必要があると思うが、施設の現状はどうなのか。

湊屋町長 町内外からの集客拠点の一つとして整備予定

湊屋町長

自然とみどりの村周辺の再整備については、キャンプ場及び交流施設等の整備・運営並びに有効活用に係る計画策定に十分な見識を有する民間事業者と連携を図った上で、「町内の人たちの憩いの場」、「観光客

との交流の場」、「民間事業者が持つ力を最大限活用し、これまでにない付加価値の提供」など複合型施設としてエリア価値の最大化を目指し、町内外からの集客拠点の一つとして整備する予定であり、社会体育施設である総合運動公園は、今回の再整備計画には盛り込まない。

再質問

スポーツ施設は、あまり利用されていないように見受けられるが、今後の運営についてどう考えているのか。

石崎教育長

施設の一部老朽化もありますが、少年団等が活用しているので現状維持で考えている。

再質問

あまり利用されていない施設や老朽化施設、現在運営されていないエリアなどは、施設の見直しをした方が良いのではないかと。

石崎教育長

町民が多く活用できる施設の検討をしていきます。

人口減少対策について

質問

人口減少、人手不足問題は今後の町の発展に大きな影響を及ぼす最重要課題であり、町長の言われる「選ばれる町」「住み続けたい町」となる為にはどのような取り組み、又は対策等を考えているのか伺います。

湊屋町長 魅力向上に向け、施策を着実に進めて行く

湊屋町長

移住の為の引越し費用や住宅取得に係る負担軽減を目的とした「移住・定住促進補助金」等の支援の充実、又、保育環境の整備や出産祝金の大幅な引き上げ、給食費の無償化等、子育て世代への支援を強化し、若い世代が暮らしやすい町づくりを推進する。

更に、安定した雇用環境の確保や町外からの交流人口を増やすことで地域の活性化を促進します。

小川議員その他の質問

・ふるさと納税について



山下 竜哉
議員

教育執行方針に対する二点の質問

質問

教育行政執行方針の中で「道徳教育」に関する記述が少ないと思いますが、その重要性をどのように捉えているのか伺います。

石崎教育長
道徳教育は、人格形成と社会調和において重要であります

石崎教育長

道徳教育は、自立し他者と共に生きるための特性を養うことを目的とするもので、学校では自己肯定感や思いやりを育てることが重要であり、すべての教育活動で取り組むべきとされます。子供たちが主体的に学び考え、行動する力を育み、持続可能な社会の担い手を育てていくのが道徳教育の本質であります。

英語教育について

質問

英語教育の充実を図るその目的と、最終目標はどのように考えているのか伺います。

石崎教育長
幼稚園児より英語教育に力を入れている

石崎教育長

世界自然遺産の地である羅臼町では、国際的なコミュニケーション力や異文化理解を持つ人材育成のため、幼稚園から英語教育に力を入れている。目標として、小学六年で英検五級、中学卒業時に三級、高校卒業時には準二級～二級の合格率向上を掲げ、その検定料は幼小中高一貫教育推進協議会が全額負担をしております。また、英語指導助手であるALTを切れ目なく招致し、英語教育の更なる充実を図ってまいります。

再質問

幼稚園から一貫して英語に慣れ親しみ勉強していく以上、例えば観光客相手の

ガイドさんやお店の店員さん等々、最終的に羅臼町内の皆が普通に会話の成り立つ英語教育をするべきではないでしょうか。お伺いします。

石崎教育長

その様になれば素晴らしいと思います。英語教育は科目として行われ、従来の試験中心から、耳で聞いて理解しコミュニケーションをとることを重視する形に変化しています。幼少期から英語に親しむことが重要と考え、その取り組みを進めています。高校卒業時点で一律に流暢に話せることを目標とするのではなく、各自が英語の必要性に気づき、学びを深めるきっかけを得られる環境を整えることが大切と捉え、英語に触れる機会の創出を重視しています。



総務民生常任委員会 経済文教常任委員会 合同行政視察

十一月十九日、総務民生常任委員会と経済文教常任委員会の合同研修として、羅臼幼稚園、春松幼稚園、羅臼小学校、春松小学校の四つの教育施設を視察しました。

令和九年度に向けて、これらの施設を現羅臼小学校の建物一箇所に統合し、新しい学校教育・幼児教育を行う「施設一体型幼小連携校」として再編する方針が決定されています。行政と議会では昨年度からこの取り組みについて意見交換を重ねており、今回の視察研修は、各施設の現状や教育現場の教職員の意見を確認する目的で実施されました。

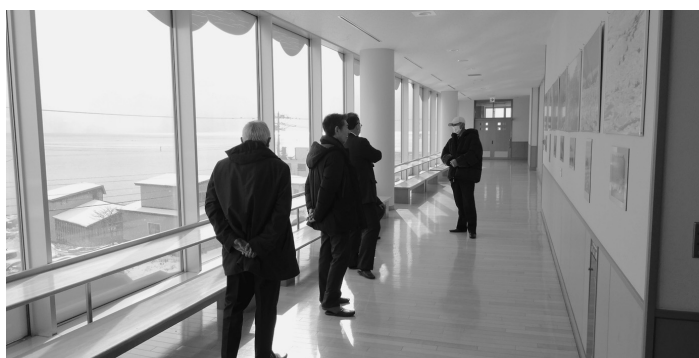
現在、令和五年度から六年度にかけて羅臼町の児童数は小学校で約二〇〇名、幼稚園で約七〇名と推計されています。学年ごとでは約三〇名程度の規模を維持しているものの、地域ごとの偏りが顕著で、春松地区では一学年の児童数が一桁

となる場合もあります。教育環境の質を考えると、こうした少人数規模の状況は懸念材料となっています。一校一園化については議員間でもさまざまな意見が寄せられています。春松幼稚園と春松小学校はもとものと幼小連携を前提とした施

設として設計されており、子ども同士や教職員同士の距離感が近い点で教育的効果が大いとの評価があります。一方で、統合先を中心部にすることで、地域の各団体との連携や交通利便性の向上が期待できるため、コンパクトシティへの取り組みにも資するとの意見もあります。一体型施設への改修に伴う建物の使い勝手の課題についても懸念が示され、「今回の視察を通じ

て、これまで考慮されていなかった視点が浮かび上がり、新たな議論のきっかけとなった」との声も聞かれました。

現在、現羅臼小学校の建物を活用した一体型施設への統合準備が進められていますが、今後は統合後に生じる空き施設の活用方法や、新施設の運営方針についても慎重に協議していきたいと考えています。



羅臼小学校・春松小学校 合同「まちづくり提案会」

二月二十六日に羅臼小学校と春松小学校の六年生による「まちづくり提案会」が開催されました。町議会議員と教育委員会関係者が招待され、羅臼小学校の多目的ホールでプレゼンテーションが行われました。

児童が作成したという資料は視覚効果を狙ってか、大事なポイントのフォントサイズや色使いが考慮されており、それを見ただけでも仲間同士で話し合い、練られた内容であることが伝わりました。アナウンス原稿を作成する時も、互いに聞き合いながら改善したのでしょうか、とてもスムーズな発表でした。

児童が作成したという資料は視覚効果を狙ってか、

大事なポイントのフォント

サイズや色使いが考慮され

ており、それを見ただけで

も仲間同士で話し合い、練

られた内容であることが伝

わりました。アナウンス原

稿を作成する時も、互いに

聞き合いながら改善したの

でしよう、とてもスムーズ

な発表でした。

羅臼小学校では、「百年

続く羅臼を目指して」とい

うテーマを基に「世界中か

ら応援される街を作る」を

サブテーマに設け、それを

「産業の活性化」「自然との

産業の活性化	自然との共存	暮らしやすい街
課題 羅臼の漁業を支えるために漁師の「思い」を届ける 具体的なアイデア 漁師の考えを伝える 期待される効果 生産者の思いが届く 4年生 羅臼の産業 5年生 羅臼昆布	課題 羅臼の自然の素晴らしさを私たち町民が知り、伝える 具体的なアイデア 知床子どもガイド 期待される効果 知床を学ぶ新たな意味 3年生 知床の自然 5年生 羅臼昆布	課題 羅臼の自然を生かし、子どもたちの成長へ繋げる 具体的なアイデア 知床探検隊ミニツアー 期待される効果 ふるさとに誇りを持つ 3年生 知床の自然 4年生 羅臼の産業 6年生 街づくり

共存」「暮らしやすい街」という三つの分野に分け、羅臼の良さを生かしつつ課題面を改善し、周りへ発信していく。その為には自分達町民も羅臼を知る必要があります、学校内の活動に導入していく必要がある。という学びを発表しています。

春松小学校では、「住み

続けたい町、戻ってきた

町」をテーマに「探検隊」

「公園」「春松小学校（の再

活用）」「バス」に分け、自

分達が思う羅臼の改善すべ

きところを重点に提案し、今後の取り組みとそれに伴う効果を伝えていただきました。今現在、町民が抱えている問題に対する心の声を代弁しているような発表内容でした。



発表の中には、羅臼町のマスコットキャラクターを生み出す提案もありました。あらゆる手段で情報を入手できる現代の子供達にとっては比較する対象があることで、より現実的なアイデ



アを生み出すことができている。」「羅臼町に求めること」を仲間と考える時間を経験することで「自分達に何ができるのか」という思いも生まれてくるのではないのでしょうか。一町民としての自覚が高まり、それぞれに思い描く未来像の集まりがこれからの羅臼町を造っていくのだと思います。今回、両校の六年生の発表を町議会議員の立場で聞かせていただきましたが、思った以上の完成度の高さに驚きを隠せませんでした。現代の教育の質の高さも感じられましたし、児童達が将来羅臼町をどのような街



にしてくれるのだろうかという期待が膨らみました。その時まで私たちが今何をすべきなのか、何を残していくのか、再度気持ちを引き締め取り組んでいこうと思います。

羅臼町議会 第2期議会改革サポーター

任期：令和5年1月1日～令和7年4月30日

はま 濱	まつ 松	ゆき 幸	やす 保さん	いし 石	だ 田	かず 一	み 美さん	あき た や 秋田谷	りょう 良	こ 子さん
の 野		しょう 祥	こ 子さん	い 井	だ 田		みゆきさん	おお た だい 太田大		すけ 輔さん
まつ 松	だ 田	ま 真	ゆみ 弓さん	の 野		たか 喬	のぶ 暢さん	えび 蝦	な 名	じん 仁さん

議会の動き

1 月

4日	令和7年羅臼消防団出初式	議長
7日	令和7年羅臼町20歳のつどい	議長
16日	広聴広報常任委員会	
21日	町長・議会議長と商工会正副会長が新年を迎え語り合う会（中標津町）	議長
24日	議会運営委員会 令和7年第1回臨時会	
28日	広聴広報常任委員会	

2 月

5日	令和7年羅臼建設業協会新年交礼会 議長・経済文教常任委員長	
7日	2025「北方領土の日」根室管内住民大会（根室市）	議長
12日	北海道議会北方領土対策特別委員会道内調査（根室市） 議会改革研修会（北海道大学公共政策大学院 山崎幹根院長講演）	議長
25日	全員協議会	
26日	小学生によるまちづくり提案会 （羅臼小6年生・春松小6年生）	

3 月

3日	議会運営委員会
5日	令和7年第1回定例会（1日目）
6日	令和7年第1回定例会（2日目）
7日	経済文教常任委員会 総務民生常任委員会
10日	予算審査特別委員会（1日目）
11日	予算審査特別委員会（2日目）
12日	予算審査特別委員会（3日目）
13日	令和7年第1回定例会（3日目） 議会運営委員会 議会改革特別委員会
26日	広聴広報常任委員会

4 月

18日	根室町村議会議長会定期総会（中標津町） 議長・副議長
-----	-------------------------------

議会改革研修会 2月12日

北海道大学公共政策大学院
山崎幹根院長講演

1. 議会（議員）活動の「見える化」、議会（議員）としてのやりがいの実感、住民の理解と共感、評価を得ることができるか。
●風通しのよい議会運営への不断の改善
議会と住民の敷居をいかに低くするか
2. 住民と議会との情報共有、相互理解
●議会からの働きかけが「一方通行」になっていないか？
●「わかりやすさ」「情報共有」「双方向の対話」が実践できているか
3. 実効性のある若者との対話を
●形式的な理解・体験から、議会の役割・政治の役割の実感へ
●議会・首長が、適切に疑問に答えられるか、政策提言を反映、実現できるか。

さらなる質の向上を目指して

- 議会改革をどのように進化させるか
- 羅臼町議会による多くの実践
- 更に質を高めることができるか
- より多くの人材を呼び込むことができるか

